



江戸時代の辞書

2014. 12. 10 (水) ~ 2015. 02. 03 (火)

三重大学附属図書館

【展示凡例】

書名、読み（ひらがな）、ジャンル、刊・写、書型、巻冊数、編著者名、序・跋（名前と年号）、刊行・成立年、版元（出版地）、架蔵番号、解説、項目担当者名の順で記述。文中、後印本とは同じ板木でのちに刷った本。再板本（再刻本）とは板木を彫り直して再度印刷した本を指す。

ごあいさつ

今年度は、7月22日より10月22日までの3ヶ月間、『近代辞書の歩み』と題し、三重大学附属図書館ロビーにおいて、明治以降の辞書の展示を行いました。今回はそれより時代をさかのぼり、『江戸時代の辞書』と題し、江戸時代に用いられた国語辞書、漢和辞書、漢字辞書などを計14点展示いたします。これらの辞書は『言海』以降の近代辞書に比べ、装丁も紙質もまったく違いますが、現代の辞書と共通する様式も多々あります。津藩の国学者谷川士清の『和訓栞』は本館所蔵の優品です。五十音順の本格採用はこの辞書が初めてです。展示品目の約半分は本館の研究開発室協力教員で人文学部の吉丸雄哉先生からお借りしています。江戸文学が専門の吉丸先生にとって、これらの辞書はいまでもときおり引く現役の辞書だそうです。本は古びていますが、辞書にまだまだ枯れることのない生命があることに驚きます。

今回の展示パンフレットの解題は、人文学部文化学科の授業科目『図書館・図書館史／図書及び図書館史』（司書課程科目、長澤多代先生担当）を受講している学生が執筆しています。これまで、附属図書館所蔵の和漢古書が本学において教育に使用されることはありませんでした。附属図書館研究開発室が行っている整理事業が途中のため、利用は限定的ではありますが、念願であった和漢古書の教育への利用がまずは達成できました。約2年後の整理事業完了後は、より多くの学生の教育に利用できることと思います。その日を今しばらくお待ちください。

平成26年12月 三重大学附属図書館長 吉岡 基

江戸時代の辞書

節用集 せつようしゅう

節用集とは、室町時代中頃から昭和初期まで作られた用字検索を主目的とした国語辞典。主題別に分類し、次にいろは順に配列するもの（展示本 1・2）と、いろは引を最優先して引きやすさを第一にした早引節用集（展示本 3）がある。江戸後期になると、早引節用集をベースとしつつ展示本 4・5 のように付録が多く百科事典的で語彙の豊富なものも登場する。（後藤稚菜、田中萌枝、長脇世奈）

1. 書言字考節用集 しょげんじこうせつようしゅう

辞書・節用集、刊、半紙本、10 巻 13 冊、
榎島昭武編、自序（元禄 11（1698）成）、
明和 3（1766）刊、（京都）村上勘兵衛・
（江戸）丹波屋甚四郎・（大坂）本屋又兵衛、個人蔵。

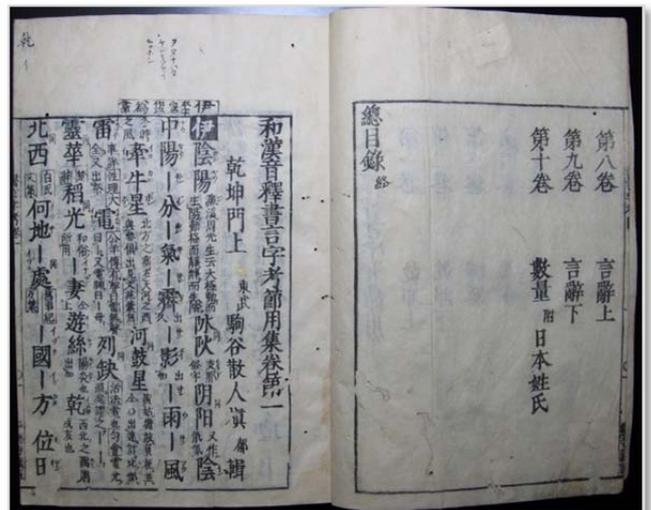
題簽「増補 合類節用集 再版」。内題「和漢音釈書言字考節用集」で「書言字考節用集」と呼ばれる。展示本は享保 2 年（1717）刊後印本（初版と同年刊）の板木に明和 3 年（1766）の刊記を足した後印本。題簽は「合類節用集」だが、『合類節用集』（若耶三胤子編、延宝 8（1680）刊）とは別本。展示本 2 が本書のさらに後印本で内容の解説はそちらに譲る。（長谷川真由、平野彩夏）



2. 書言字考節用集 しょげんじこうせつようしゅう

辞書・節用集、刊、半紙本、10巻5冊、
榎島昭武編、自序（元禄 11（1698）成）、
明和 3（1766）刊、（京都）村上勘兵衛・
（江戸）丹波屋甚四郎・（大坂）本屋又兵衛、
三重県師範学校旧蔵、w813 Sh95。

題簽「書言字考」。展示本は展示本 1 の
後印本。漢字を見出し語とし、片仮名で傍
訓を付した国語辞書。語彙を意味により 13
種に分類し、次にいろは順に配列。収録語
は、先行の節用集などの語彙に、和漢書・
仏典などの語句や世俗の語などを加えた
約 3 万項目。先行辞書に比べ、異字同訓語
を多く収録し、外来語も多数含む。浩瀚で正確かつ詳細な注記が好まれ、明治期まで発行
された。（瓜生佐代、小田千寿瑠、村田裕斗）



3. いろは節用集大成 いろはせつようしゅうたいせい

辞書・節用集、刊、横中本、3冊、中村国香編、自序文化 13（1816）成、安政 5（1858）
刊、（大阪）象牙屋治郎兵衛・木屋伊兵衛・豊田屋卯左衛門、個人蔵。

題簽「いろは引」。天保 13 年（1842）本の後印本。展示本 1・2 のような通常の節用集
では主題と言葉の関連付けが分かりにくいので、本書のようにまずいろは順で配列し、そ
の後音節数順に並べる早引節用集が登場した。草書と楷書の両字体を収録。展示本 1・2
に比べて圧倒的に引きやすいため、普及した。（後藤稚菜、田中萌枝、長脇世奈）

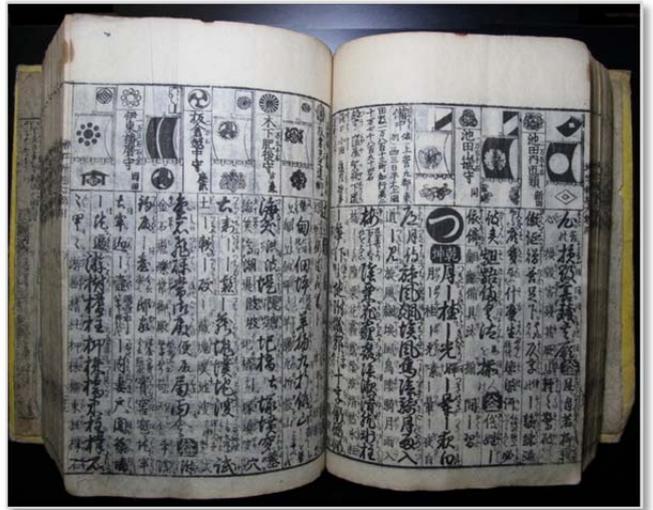


4. 都会節用百家通 とかいせつようひゃっかつう

辞書・節用集、大本、1冊、高安蘆屋編・鎌田環斎増補・丹羽桃溪画、文政2(1819)刊、(江戸)前川六左衛門・(大坂)敦賀屋九兵衛・象牙屋治良兵衛・河内屋木兵衛・塩屋平助、031.3.D27。

外題「(角書)新字増刻 大節用集」。寛政13年(1801)刊本の再版本。大型節用集の最初の本。検索法は早引節用集と同じだが、展示本5と同様に収蔵語・付録を大幅に増補した。大判で挿絵も豊富であり、百科事典や教養書としての役割も果たした。

(松田育美、岩崎礼菜、鈴木亮)

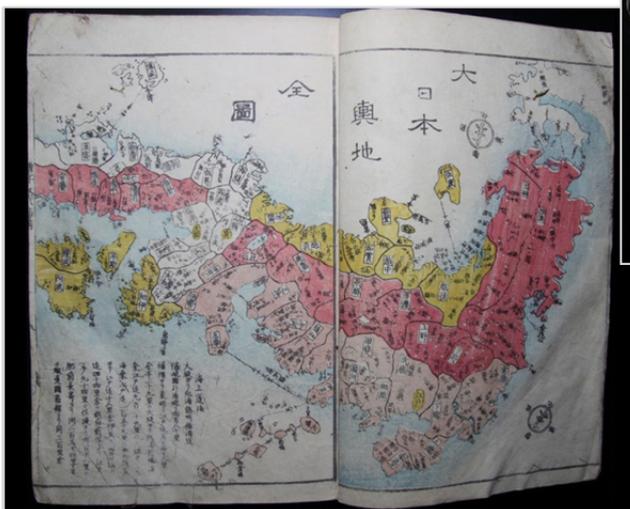


5. 永代節用無尽蔵 えいだいせつようむじんぞう

辞書・節用集、刊、大本、1巻2冊、河邊桑揚編・堀源入増補・堀原甫統輯・清水葵齋訂正補輯、文久4(1864)刊、(江戸)須原屋茂兵衛・(京)風月庄左衛門・小林藤吉郎・勝村治右衛門・他11軒、813.E39。

角書「新撰 大日本」。内題「大日本永代節用無尽蔵」。語はいろは順の配列。天保2年(1831)刊本の四刻本。さらに乾坤(天下の事柄)・時候・草木・言語などのジャンルで分類する。特色は第一冊の半分以上が百科事典的内容であること。世界地図、日本地図を色つきで詳しく掲載するほか、適宜挿絵を交える。冒頭、あるいは字引の上段に、年号改元日一覧、各武将に仕えた英傑の図、手相人相図など付録を多数収録。

(堀越千晶、日野優美、水野綾香)





和訓栞 わくんのしおり

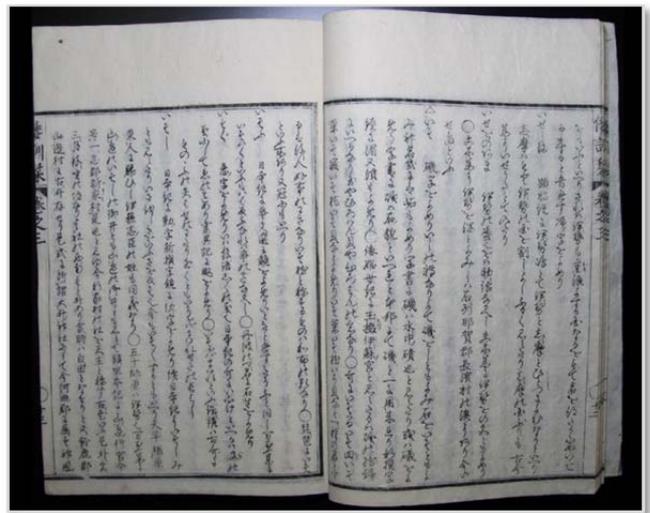
語の初め二語（あ、あい…あれ、あろ）が五十音順で完全ではないものの、日本で初めて五十音順を本格採用した辞書。従来の辞書に比べて、詳細で確かな典拠と妥当な語釈を付す。編者士清は前編の出版も見ずに亡くなり、彼の遺志を継いだ子孫・門弟により刊行された。完結まで百十余年の歳月がかかっている。（井上舞香、山舗怜、横井千浩）

6. 和訓栞前編 わくんのしおりぜんぺん

辞書、刊、大本、現存 23 巻 20 冊（22 巻 14 冊欠）、谷川士清編、本居宣長序、1-13 巻が安永 6（1777）刊、14-28 巻が文化 2（1805）刊、29-45 巻が文政 13（1830）刊、（江戸）須原屋茂兵衛・（京）山本平左衛門・風月荘左衛門・他 1 軒、813.1 Ta88 A1-20。

前編では古語・雅語（和歌などに用いる平安時代の優雅な言葉）を主に採録するが、そのほか口語など幅広く語彙を収めたことが画期的。首巻の大綱に契沖・新井百石・井上文雄・賀茂真淵・

本居宣長らの学説を巧みに載せる。本学所蔵本は前編 45 巻 34 冊のうち、24 巻以降を欠く。（井上舞香、山舗怜、横井千浩）

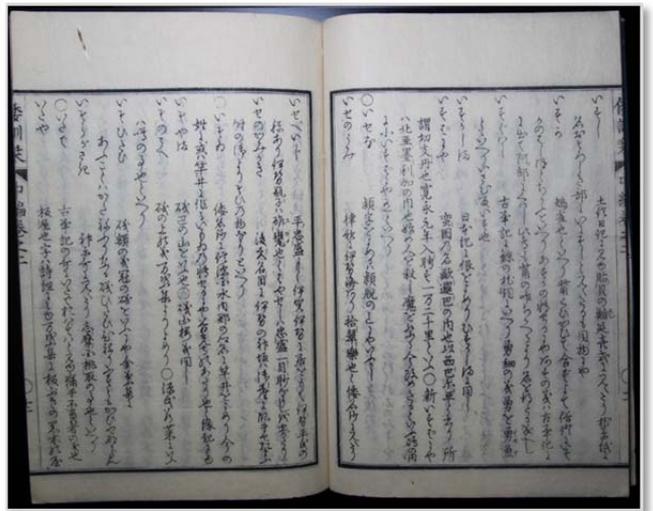


7. 和訓栞中編 わくんのしおりちゅうへん

辞書、刊、大本、30巻30冊、谷川士清編、文久2(1862)刊、(江戸)須原屋茂兵衛・岡田屋嘉七・(洞津)篠田伊十郎・秋田太右衛門・(大坂)河内屋喜兵衛・敦賀屋九兵衛・他7軒、813.1 Ta88A1-20。

中編は、雅語を主に収める。語釈には『源氏物語』『古事記』『土佐日記』『万葉集』などをあげる。三字以降は字数で配列するので展示箇所の「○いせな」の後は「いせのうみ」「いせへいじ」「いせのかみさき」の順に並ぶ。

(原千風美、杉浦友衣子、出口真由、浪江由唯)

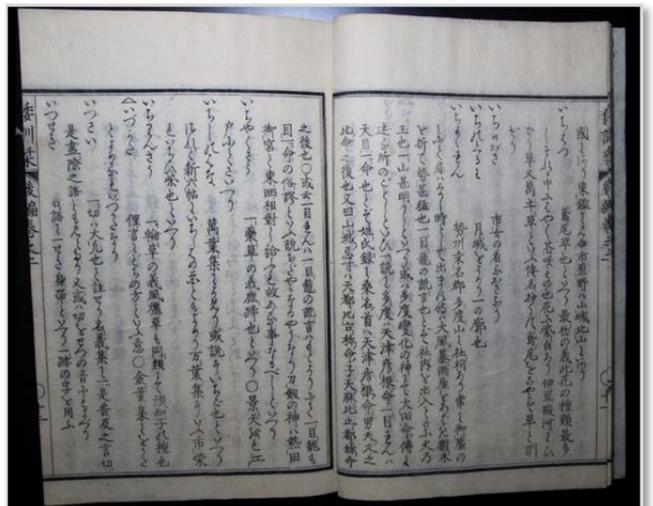


8. 和訓栞 わくんのしおりこうへん

辞書、刊、大本、18巻18冊、谷川士清編、自序、明治20(1887)刊、(岐阜)三浦源助、813.1 Ta88 A1-20。

後編は俗語・方言及び前・中編の補遺を収める。各語の仮名遣いは古典に基づく。語彙や訓点語の他、朝鮮語などの外来語も含み、幅広い語を収録する。それぞれ典拠を挙げ、語釈は正確である。

(一木梓、山下実里、多湖菜々穂)





小野篁と歌字尽

小野篁は平安前期（延暦 21 年～仁寿 2 年（802～852））の漢詩人・歌人。漢詩文をよくし、和歌では『古今和歌集』以下勅撰集に 12 首が入集。自由奔放な人柄や機知・頓才に関する逸話が多々残る。後代では書道の達人としても知られていた。（鈴木明日香、藤野菜月季）

9. 小野篁歌字尽 おののたかむらうたじづくし

往来物、刊、半紙本、1 冊、刊年不明、個人蔵。

手習する子どもが漢字を覚えたための教科書で、寛文 2 年（1662）から幕末まで 139 種の版がある。偏や旁などが同じ漢字や熟語を一行に並べ、その左に覚えるための歌を付けた。展示箇所「休・伏・伸・任・件」の左は「木はやすむ いぬはふすなりさるのぶる みつのへまかす うしはくだんに」。本書に基づく戯作に滑稽本『小野篁諛字尽』（展示番号 10）がある。

（鈴木明日香、藤野菜月季）



10. 小野篁諺字尽 おののばかむらうそじづくし

滑稽本、刊、中本、一巻一冊、式亭三馬著・楽亭馬笑校、自序、文化3（1806）刊・（江戸）和泉屋市兵衛板、個人蔵。

初版は文化3年（1806）正月刊上総屋忠助本。展示本は文化3本の版元だけ彫り直した後印本。

江戸後期の戯作者式亭三馬の作。天明3年（1783）刊行の恋川春町作・画の黄表紙『郭篁費字尽（さとのばかむらむだじづくし）』にならい、漢字教科書『小野篁歌字尽』（展示番号9）の字句や内容をもじる。諺字尽最後にあたる展示箇所は「（右ルビ、しきてい）麤（左ルビ、馬三疋が三馬式亭）」。江戸戯作を理解する良き資料であり、異体字の資料である。

（長谷川咲希、濱田英奈、野間己由）





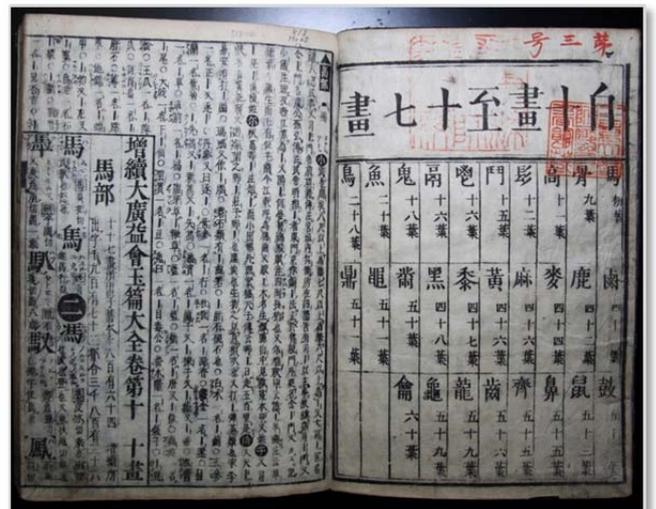
漢字辞書

漢字辞書は、顧野王撰『玉篇』(543 成)が輸入され盛行したのち、空海編『篆隸万象名義(てんれいばんしょうめいぎ)』(830)が編まれ、以後漢和辞典が作られるようになった。その後『大広益会玉篇』(1013)が輸入され、江戸時代はそれを元にした漢和辞典(展示本 11)が用いられた。より簡易な漢字字書(展示本 13)も存在する。清代の『康熙字典』など最新の辞書もいち早く移入され、校訂が付き明治期まで利用された(展示本 12)。江戸時代は唐話小説(近代中国語)の翻訳も盛んで、唐話小説を読むための唐話辞書(展示本 14)も刊行されている。(吉丸雄哉)

11. 増続大広益会玉篇大全 ぞうぞくだいこうえきかいぎよくへん

辞書、刊、10 卷 12 冊、毛利貞斎編、自序(元禄 4 (1691) 成)、安永 9 (1780) 刊、(大坂) 大野木市兵衛・松村九兵衛・渋川清右衛門・鳥飼市兵衛・他 2 軒板。813.Mo45.1~12。

儒学者毛利貞斎が中国の字書『大広益会玉編』をもとに編んだ漢和辞書。元本の部首索引、本書は筆画順索引に改め、さらに音訓・訓点を加えた。本書は享保 20 年(1735)刊本の再版本。掲出は見出し字とその読みおよび解説のみ。熟語は未収録。江戸から明治にかけ、たいへんよく用いられた。(川北奈美・田中美菜・前田幸恵)

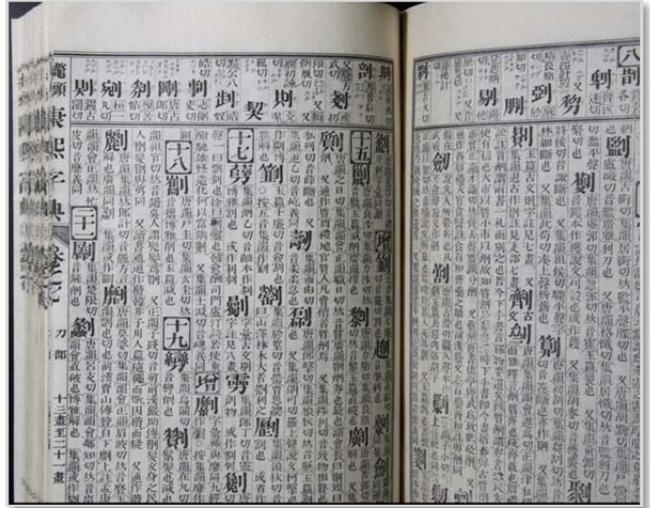


12. 康熙字典 こうきじてん

漢籍、刊、中本、40巻6冊、石川鴻斎編、自序（明治15（1882）成）、明治25刊、（東京）博文館、823.43。

銅版本。角を補強した装丁を康熙綴という。角書「鼈頭音釋」。『康熙字典』は清の康熙帝の命で、張玉書と陳廷敬らが編纂し、康熙55年（1716）に完成した漢字字書。展示本は、石川が解釈と発音を加えて鳳文館から明治16年に出版したものを博文館が著作権譲りうけて明治25年に刊行したもの。博文館は戦前の大出版社で、辞書も多く出版した。

（泉ひかる、桑原杏佳、若木香奈）



13. 新增字林玉篇 しんぞうじりんぎよくへん

辞書、刊、横本、1冊、鎌田環斎編、自序寛政9（1797）、無刊記、個人蔵。

寛政頃に編まれた漢字辞書。現代の辞書と同様に漢字の部首、画数で検索できる。漢字の読みも記す。『康熙字典』（展示番号12参照）の三万三千七百九十九字より多い四万三千六十余字を収録し、簡潔ながらより網羅的。寛政10年版以降幕末まで多数出版された。

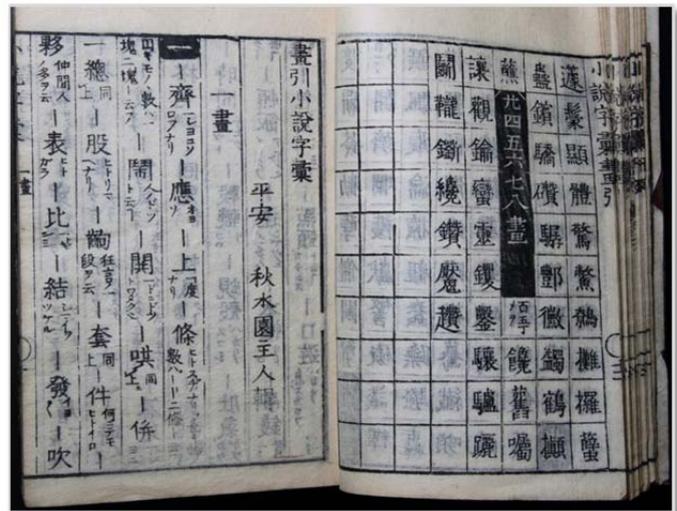
（石川千裕、近藤千晶、伊藤早紀）



14. 小説字彙 しょうせつじい

外国語・語彙、刊、小本、1冊、秋水園主人編、蘆屋序(天明4序(1784))、刊年不明、(江戸)須原屋茂兵衛・山城屋佐兵衛・(紀州若山)阪本屋大二郎・(大阪)秋田屋市兵衛・他7軒板、個人蔵。

寛政3年(1791)刊本の後印本。刊年は不明。中国の白話小説の語彙を画数順にまとめ、簡単な和訳をつけた辞書。訳は俗語的。白話小説は中国の当時の口語的小説で『水滸伝』『三国志演義』などが代表作。冒頭に引用書名を160余种あげる。実際は孫引も多いようだが、当時の白話小説の流行がうかがえる。(坂部香澄、川口由布奈、中村晴香)



■ 参考文献

- 日本古典籍総合目録データベース <http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html>
- 藤村作編『日本文学大辞典』(新潮社、1950)
- 『日本古典文学大辞典』(岩波書店、1984-86)
- 『国史大辞典』(吉川弘文館、1983-1997)
- 佐藤貴裕「十九世紀節用集における大型化傾向」(『国語語彙史の研究』24、2005。p. 99-115)
- 米谷隆史「『合類節用集』の増補態度について：「多識編」からの引用を中心に」(『待兼山論叢 文学篇』28、1994。p. 33-48)
- 金澤裕之・矢島正浩編『近世語研究のパースペクティブ：言語文化をどう捉えるか』(笠間書院、2011、205p)
- 阿部俊夫「福島県史料情報」第6号
- ”。<http://www.history-archives.fks.ed.jp/con7/rokugo.html>, (参照 2014-11-28)
- 杉本つとむ編『異体字研究資料集成』9(雄山閣、1975)
- 大岩本幸次「毛利貞齋『増続大広益会玉篇大全』所引の小学書について」(『東北大学中国語学文学論集』2011・16、p. 93-108.) .
- 太平主人編『小野 篁字尽』(太平書屋、1997)。
- 飛田良文編『日本語学研究事典』(明治書院、2007)
- 中田祝夫・小林祥次郎編『改訂新版 書言字考節用集』(勉誠出版、2006)
- 『士清さん 一谷川士清生誕三百年記念誌』(谷川士清生誕300年記念事業実行委員会、2011)

後 記

本展示の企画・制作は本図書館研究開発室協力大学教員の人文学部吉丸雄哉准教授および本図書館研究開発室長澤多代准教授が行いました。

展示の解説・解題担当は、長澤多代及び吉丸雄哉が担当する人文学部文化学科授業科目「図書館・図書館史／図書及び図書館史」の受講学生が行い、吉丸雄哉が監修いたしました。

展示本のうち、個人蔵とあるものは吉丸雄哉架蔵本です。

江戸時代の辞書 展示資料目録

発行 三重大学附属図書館

平成 26 年 12 月 10 日

この目録はインターネットからもご覧になれます。

URL http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/research/exhibit/edj.pdf